

# 大正陸軍豫算表

(單位千圓)

年度	經常費	臨時費	合計
大正二年	七六、二四七	一三、六三三	八九、八八〇
大正三年	七五、五四二	一〇、五九八	八六、一四〇
大正四年	七四、〇三八	一〇、六五六	八四、六九四
第十師團			
第十一師團			
第十二師團			
第十三師團			
第十四師團			
第十五師團			
第十六師團			
第十七師團			
第十八師團			
第十九師團			
第二十師團			
第二十一師團			
第二十二師團			
第二十三師團			
第二十四師團			
第二十五師團			
第二十六師團			
第二十七師團			
第二十八師團			
第二十九師團			
第三十師團			
第三十一師團			
第三十二師團			
第三十三師團			
第三十四師團			
第三十五師團			
第三十六師團			
第三十七師團			
第三十八師團			
第三十九師團			
第四十師團			
第四十一師團			
第四十二師團			
第四十三師團			
第四十四師團			
第四十五師團			
第四十六師團			
第四十七師團			
第四十八師團			
第四十九師團			
第五十師團			
第五十一師團			
第五十二師團			
第五十三師團			
第五十四師團			
第五十五師團			
第五十六師團			
第五十七師團			
第五十八師團			
第五十九師團			
第六十師團			
第六十一師團			
第六十二師團			
第六十三師團			
第六十四師團			
第六十五師團			
第六十六師團			
第六十七師團			
第六十八師團			
第六十九師團			
第七十師團			
第七十一師團			
第七十二師團			
第七十三師團			
第七十四師團			
第七十五師團			
第七十六師團			
第七十七師團			
第七十八師團			
第七十九師團			
第八十師團			
第八十一師團			
第八十二師團			
第八十三師團			
第八十四師團			
第八十五師團			
第八十六師團			
第八十七師團			
第八十八師團			
第八十九師團			
第九十師團			
第九十一師團			
第九十二師團			
第九十三師團			
第九十四師團			
第九十五師團			
第九十六師團			
第九十七師團			
第九十八師團			
第九十九師團			
第一百師團			

# 陸軍常備團隊表

團隊名稱	所在地
近衛師團	(東京)
師團司令部	(東京)
近衛步兵第一旅團司令部	(東京)
近衛步兵第一聯隊	(東京)
近衛步兵第二聯隊	(東京)
近衛步兵第三聯隊	(東京)
近衛步兵第四聯隊	(東京)
近衛步兵第五聯隊	(東京)
近衛步兵第六聯隊	(東京)
近衛步兵第七聯隊	(東京)
近衛步兵第八聯隊	(東京)
近衛步兵第九聯隊	(東京)
近衛步兵第十聯隊	(東京)
近衛步兵第十一聯隊	(東京)
近衛步兵第十二聯隊	(東京)
近衛步兵第十三聯隊	(東京)
近衛步兵第十四聯隊	(東京)
近衛步兵第十五聯隊	(東京)
近衛步兵第十六聯隊	(東京)
近衛步兵第十七聯隊	(東京)
近衛步兵第十八聯隊	(東京)
近衛步兵第十九聯隊	(東京)
近衛步兵第二十聯隊	(東京)
近衛步兵第二十一聯隊	(東京)
近衛步兵第二十二聯隊	(東京)
近衛步兵第二十三聯隊	(東京)
近衛步兵第二十四聯隊	(東京)
近衛步兵第二十五聯隊	(東京)
近衛步兵第二十六聯隊	(東京)
近衛步兵第二十七聯隊	(東京)
近衛步兵第二十八聯隊	(東京)
近衛步兵第二十九聯隊	(東京)
近衛步兵第三十聯隊	(東京)
近衛步兵第三十一聯隊	(東京)
近衛步兵第三十二聯隊	(東京)
近衛步兵第三十三聯隊	(東京)
近衛步兵第三十四聯隊	(東京)
近衛步兵第三十五聯隊	(東京)
近衛步兵第三十六聯隊	(東京)
近衛步兵第三十七聯隊	(東京)
近衛步兵第三十八聯隊	(東京)
近衛步兵第三十九聯隊	(東京)
近衛步兵第四十聯隊	(東京)
近衛步兵第四十一聯隊	(東京)
近衛步兵第四十二聯隊	(東京)
近衛步兵第四十三聯隊	(東京)
近衛步兵第四十四聯隊	(東京)
近衛步兵第四十五聯隊	(東京)
近衛步兵第四十六聯隊	(東京)
近衛步兵第四十七聯隊	(東京)
近衛步兵第四十八聯隊	(東京)
近衛步兵第四十九聯隊	(東京)
近衛步兵第五十聯隊	(東京)
野戰重砲兵第八聯隊	(東京)
近衛工兵大隊	(東京)
鐵道第一聯隊	(千葉)
鐵道第二聯隊	(千葉)
電信第一聯隊	(千葉)
飛行第五聯隊	(千葉)
氣球隊	(千葉)
近衛輜重兵大隊	(千葉)
第一師團	(東京)
師團司令部	(東京)
步兵第一旅團司令部	(東京)
步兵第一聯隊	(東京)
步兵第二聯隊	(東京)
步兵第三聯隊	(東京)
步兵第四聯隊	(東京)
步兵第五聯隊	(東京)
步兵第六聯隊	(東京)
步兵第七聯隊	(東京)
步兵第八聯隊	(東京)
步兵第九聯隊	(東京)
步兵第十聯隊	(東京)
步兵第十一聯隊	(東京)
步兵第十二聯隊	(東京)
步兵第十三聯隊	(東京)
步兵第十四聯隊	(東京)
步兵第十五聯隊	(東京)
步兵第十六聯隊	(東京)
步兵第十七聯隊	(東京)
步兵第十八聯隊	(東京)
步兵第十九聯隊	(東京)
步兵第二十聯隊	(東京)
步兵第二十一聯隊	(東京)
步兵第二十二聯隊	(東京)
步兵第二十三聯隊	(東京)
步兵第二十四聯隊	(東京)
步兵第二十五聯隊	(東京)
步兵第二十六聯隊	(東京)
步兵第二十七聯隊	(東京)
步兵第二十八聯隊	(東京)
步兵第二十九聯隊	(東京)
步兵第三十聯隊	(東京)
步兵第三十一聯隊	(東京)
步兵第三十二聯隊	(東京)
步兵第三十三聯隊	(東京)
步兵第三十四聯隊	(東京)
步兵第三十五聯隊	(東京)
步兵第三十六聯隊	(東京)
步兵第三十七聯隊	(東京)
步兵第三十八聯隊	(東京)
步兵第三十九聯隊	(東京)
步兵第四十聯隊	(東京)
步兵第四十一聯隊	(東京)
步兵第四十二聯隊	(東京)
步兵第四十三聯隊	(東京)
步兵第四十四聯隊	(東京)
步兵第四十五聯隊	(東京)
步兵第四十六聯隊	(東京)
步兵第四十七聯隊	(東京)
步兵第四十八聯隊	(東京)
步兵第四十九聯隊	(東京)
步兵第五十聯隊	(東京)
步兵第五十一聯隊	(東京)
步兵第五十二聯隊	(東京)
步兵第五十三聯隊	(東京)
步兵第五十四聯隊	(東京)
步兵第五十五聯隊	(東京)
步兵第五十六聯隊	(東京)
步兵第五十七聯隊	(東京)
步兵第五十八聯隊	(東京)
步兵第五十九聯隊	(東京)
步兵第六十聯隊	(東京)
步兵第六十一聯隊	(東京)
步兵第六十二聯隊	(東京)
步兵第六十三聯隊	(東京)
步兵第六十四聯隊	(東京)
步兵第六十五聯隊	(東京)
步兵第六十六聯隊	(東京)
步兵第六十七聯隊	(東京)
步兵第六十八聯隊	(東京)
步兵第六十九聯隊	(東京)
步兵第七十聯隊	(東京)
步兵第七十一聯隊	(東京)
步兵第七十二聯隊	(東京)
步兵第七十三聯隊	(東京)
步兵第七十四聯隊	(東京)
步兵第七十五聯隊	(東京)
步兵第七十六聯隊	(東京)
步兵第七十七聯隊	(東京)
步兵第七十八聯隊	(東京)
步兵第七十九聯隊	(東京)
步兵第八十聯隊	(東京)
步兵第八十一聯隊	(東京)
步兵第八十二聯隊	(東京)
步兵第八十三聯隊	(東京)
步兵第八十四聯隊	(東京)
步兵第八十五聯隊	(東京)
步兵第八十六聯隊	(東京)
步兵第八十七聯隊	(東京)
步兵第八十八聯隊	(東京)
步兵第八十九聯隊	(東京)
步兵第九十聯隊	(東京)
步兵第九十一聯隊	(東京)
步兵第九十二聯隊	(東京)
步兵第九十三聯隊	(東京)
步兵第九十四聯隊	(東京)
步兵第九十五聯隊	(東京)
步兵第九十六聯隊	(東京)
步兵第九十七聯隊	(東京)
步兵第九十八聯隊	(東京)
步兵第九十九聯隊	(東京)
步兵第一百聯隊	(東京)

步兵第五十七聯隊 (佐倉)  
 騎兵第三旅團司令部 (習志野)  
 騎兵第一聯隊 (東京)  
 騎兵第十五聯隊 (習志野)  
 騎兵第十六聯隊 (同)  
 野戰重砲兵第三旅團司令部 (國府臺)  
 野砲兵第一聯隊 (東京)  
 騎砲兵大隊 (國府臺)  
 野戰重砲兵第一聯隊 (同)  
 野戰重砲兵第六聯隊 (同)  
 橫須賀重砲兵聯隊 (橫須賀)  
 工兵第一大隊 (東京)  
 輜重兵第一大隊 (同)

**第二師團**

師團司令部 (仙臺)  
 步兵第三旅團司令部 (同)  
 步兵第四聯隊 (同)  
 步兵第二十九聯隊 (若松)  
 步兵第十五旅團司令部 (高田)

步兵第十六聯隊 (新發田)  
 同第三大隊 (村松)  
 步兵第三十聯隊 (高田)  
 騎兵第二聯隊 (仙臺)  
 野砲兵第二聯隊 (同)  
 工兵第二大隊 (同)  
 輜重兵第二大隊 (同)  
 獨立山砲兵第一聯隊 (高田)

**第三師團**

師團司令部 (名古屋)  
 步兵第五旅團司令部 (同)  
 步兵第六聯隊 (同)  
 步兵第六十八聯隊 (岐阜)  
 步兵第二十九旅團司令部 (靜岡)  
 步兵第十八聯隊 (豐橋)  
 步兵第三十四聯隊 (靜岡)  
 騎兵第四旅團司令部 (豐橋)  
 騎兵第三聯隊 (名古屋)  
 騎兵第二十五聯隊 (豐橋)

騎兵第二十六聯隊 (同)  
 野戰重砲兵第一旅團司令部 (三島)  
 野砲第三聯隊 (名古屋)  
 野戰重砲兵第二聯隊 (三島)  
 野戰重砲兵第三聯隊 (同)  
 高射砲第一聯隊 (濱松)  
 工兵第三大隊 (豐橋)  
 飛行第一聯隊 (各務原)  
 飛行第二聯隊 (同)  
 飛行第七聯隊 (濱松)  
 輜重兵第三大隊 (名古屋)

**第四師團**

師團司令部 (大阪)  
 步兵第七旅團司令部 (同)  
 步兵第八聯隊 (同)  
 步兵第七十聯隊 (篠山)  
 步兵第三十二旅團司令部 (和歌山)  
 步兵第三十七聯隊 (大阪)  
 步兵第六十一聯隊 (和歌山)

騎兵第四聯隊 (大阪)  
 野砲兵第四聯隊 (信太山)  
 深山重砲兵聯隊 (深山)  
 工兵第四大隊 (高槻)  
 輜重兵第四大隊 (大阪)

**第五師團**

師團司令部 (廣島)  
 步兵第九旅團司令部 (同)  
 步兵第十一聯隊 (同)  
 步兵第四十一聯隊 (福山)  
 步兵第二十一旅團司令部 (山田)  
 步兵第二十二聯隊 (濱田)  
 步兵第四十二聯隊 (山田)  
 騎兵第五聯隊 (廣島)  
 野砲兵第五聯隊 (同)  
 工兵第五大隊 (同)  
 電信第二聯隊 (同)  
 輜重兵第五大隊 (同)

第六師團

師團司令部 (熊本)  
 步兵第十一旅團司令部 (同)  
 步兵第十三聯隊 (同)  
 步兵第四十七聯隊 (大分)  
 步兵第三十六旅團司令部 (鹿兒島)  
 步兵第二十三聯隊 (都城)  
 步兵第四十五聯隊 (鹿兒島)  
 騎兵第六聯隊 (熊本)  
 野砲兵第六聯隊 (同)  
 工兵第六大隊 (同)  
 輜重兵第六大隊 (同)

第七師團

師團司令部 (旭川)  
 步兵第十三旅團司令部 (同)  
 步兵第二十五聯隊 (札幌)  
 步兵第二十六聯隊 (旭川)  
 步兵第十四旅團司令部 (同)

第八師團

步兵第二十七聯隊 (同)  
 步兵第二十八聯隊 (同)  
 騎兵第七聯隊 (同)  
 野砲兵第七聯隊 (同)  
 函館重砲兵大隊 (函館)  
 工兵第七大隊 (旭川)  
 輜重兵第七大隊 (同)

師團司令部 (弘前)  
 步兵第四旅團司令部 (同)  
 步兵第五聯隊 (青森)  
 步兵第三十一聯隊 (弘前)  
 步兵第十六旅團司令部 (秋田)  
 步兵第十七聯隊 (同)  
 步兵第三十二聯隊 (山形)  
 騎兵第三旅團司令部 (盛岡)  
 騎兵第八聯隊 (弘前)  
 騎兵第二十三聯隊 (盛岡)  
 騎兵第二十四聯隊 (同)

第九師團

野砲兵第八聯隊 (弘前)  
 工兵第八大隊 (盛岡)  
 輜重兵第八大隊 (弘前)

師團司令部 (金澤)  
 步兵第六旅團司令部 (同)  
 步兵第七聯隊 (同)  
 步兵第三十五聯隊 (富山)  
 步兵第十八旅團司令部 (敦賀)  
 步兵第十九聯隊 (同)  
 步兵第三十六聯隊 (鯖江)  
 騎兵第九聯隊 (金澤)  
 山砲兵第九聯隊 (同)  
 工兵第九大隊 (同)  
 輜重兵第九大隊 (同)

第十師團

師團司令部 (姫路)  
 步兵第八旅團司令部 (同)

第十一師團

步兵第三十九聯隊 (同)  
 步兵第四十聯隊 (鳥取)  
 步兵第三十三旅團司令部 (岡山)  
 步兵第十聯隊 (同)  
 騎兵第十聯隊 (姫路)  
 野砲兵第十聯隊 (同)  
 工兵第十大隊 (岡山)  
 輜重兵第十大隊 (姫路)

師團司令部 (善通寺)  
 步兵第十旅團司令部 (同)  
 步兵第十二聯隊 (丸龜)  
 步兵第二十二聯隊 (松山)  
 步兵第二十二旅團 (徳島)  
 步兵第四十三聯隊 (同)  
 步兵第四十四聯隊 (高知)  
 騎兵第十一聯隊 (善通寺)  
 山砲兵第十一聯隊 (同)

工兵第十一大隊  
輜重兵第十一大隊

(善通寺)  
(同)

### 第十二師團

師團司令部

(久留米)

步兵第十二旅團司令部

(福岡)

步兵第十四聯隊

(小倉)

步兵第二十四聯隊

(福岡)

步兵第二十四旅團司令部

(久留米)

步兵第四十六聯隊

(大村)

步兵第四十八聯隊

(久留米)

同第三大隊

(佐賀)

第一戰車隊

(久留米)

騎兵第十二聯隊

(同)

野戰重砲兵第二旅團司令部

(小倉)

野砲兵第二十四聯隊

(久留米)

獨立山砲兵第三聯隊

(同)

野戰重砲兵第五聯隊

(小倉)

野戰重砲兵第六聯隊

(同)

下關重砲兵聯隊

(下關)

佐世保重砲兵大隊

(佐世保)

鷄知重砲兵大隊

(鷄知)

工兵第十八大隊

(久留米)

飛行第四聯隊

(太刀洗)

輜重兵第十八大隊

(久留米)

### 第十四師團

師團司令部

(宇都宮)

步兵第二十七旅團司令部

(同)

步兵第二聯隊

(水戸)

步兵第五十九聯隊

(宇都宮)

步兵第二十八旅團司令部

(高崎)

步兵第十五聯隊

(同)

步兵第五十聯隊

(松本)

騎兵第十八聯隊

(宇都宮)

野砲兵第二十聯隊

(同)

工兵第十四大隊

(水戸)

輜重兵第十四大隊

(宇都宮)

### 第十六師團

師團司令部

(京都)

步兵第十九旅團司令部

(同)

步兵第九聯隊

(同)

步兵第三大隊

(天津)

步兵第二十聯隊

(福知山)

步兵第三十旅團司令部

(天津)

步兵第三十三聯隊

(同)

步兵第三十八聯隊

(奈良)

騎兵第二十聯隊

(京都)

野砲兵第二十二聯隊

(同)

舞鶴重砲兵大隊

(舞鶴)

工兵第十六大隊

(京都)

飛行第三聯隊

(八日市)

輜重兵第十八大隊

(京都)

### 第十九師團

師團司令部

(羅南)

步兵第三十七旅團司令部

(咸興)

步兵第七十三聯隊

(羅南)

步兵第七十四聯隊

(咸興)

步兵第三十八旅團司令部

(羅南)

步兵第七十五聯隊

(會寧)

步兵第七十六聯隊

(羅南)

騎兵第二十七聯隊

(同)

野砲兵第二十五聯隊

(同)

工兵第十九大隊

(會寧)

### 第二十師團

師團司令部

(龍山)

步兵第三十九旅團司令部

(平壤)

步兵第七十七聯隊

(同)

步兵第七十八聯隊

(龍山)

步兵第四十旅團司令部

(同)

步兵第七十九聯隊

(同)

步兵第八十聯隊

(大邱)

同第三大隊

(大田)

騎兵第二十聯隊

(龍山)

野砲兵第二十六大隊

(同)

馬山重砲兵大隊

(馬山)

工兵第二十大隊

(龍山)

飛行第六聯隊

○臺灣軍司令部

臺灣守備隊司令部

臺灣步兵第一聯隊

臺灣步兵第二聯隊

臺灣山砲兵大隊

基隆重砲兵大隊

馬公重砲兵大隊

飛行第八聯隊

○關東軍司令部

獨立守備隊司令部

獨立守備步兵第一大隊

獨立守備步兵第二大隊

獨立守備步兵第三大隊

獨立守備步兵第四大隊

獨立守備步兵第五大隊

獨立守備步兵第六大隊

旅順重砲兵大隊

(平壤)

(臺北)

(同)

(同)

(臺南)

(臺北)

(基隆)

(馬公)

(屏東)

(新京)

(公主嶺)

(同)

(奉天)

(大石橋)

(連山關)

(鐵嶺)

(鞍山)

(旅順)

○支那駐屯軍司令部

天津駐屯步兵隊

北京駐屯步兵隊

(天津)

(同)

(北平)

武官俸給

(將校、准士官は年額、下士官は月額)

大	中	少	大	中	少	大	中	少	大	中	少	大	中	少	大	中	少
將	將	將	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相	相
當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當	當
官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官	官
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等

六、六〇〇	五、八〇〇	五、〇〇〇	四、一五〇	三、二二〇	二、三三〇	一、九〇〇	一、六五〇	一、四七〇	二、〇七〇	一、九一〇	一、一三〇	一、〇二〇	一、七四〇	一、六三〇	八五〇	一、四七〇	一、三六〇
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-------	-------

樂一	樂二	樂三	准士官	曹	軍	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長	長
等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等	等

二、一五〇	一、九五〇	一、七五〇	一、五四〇	一、三九〇	一、二四〇	一、一三〇	九六〇	九〇〇	二、二〇〇	一、一五〇	一、〇四三	九三〇	三、九〇〇	三、四、五〇	三、〇〇〇	二、二、五〇	一、八、〇〇	一、五、〇〇	一、三、五〇	一、〇、五〇	九、〇〇
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-----	-----	-------	-------	-------	-----	-------	--------	-------	--------	--------	--------	--------	--------	------

# 世界各國陸軍一覽 (△印は徴兵國)

國名	步兵	戰車	騎兵	砲兵	高射砲隊	航空兵
アメリカ合衆國	五三聯隊	五	一八聯隊	七五聯隊	一〇聯隊	機五四中隊 船機四四中隊
亞爾然丁△	一九聯隊	—	一一聯隊	三五中隊	—	機七中隊
英吉利	六七聯隊	四	二二聯隊	二二三中隊	六中隊	機七三中隊
伊太利△	一一一聯隊	—	一二聯隊	五四聯隊	二六中隊	船機二〇三中隊 機一三中隊
エストニア△	一八六聯隊	一	一聯隊	五大隊	一大隊	機三中隊
埃地利	一六聯隊	—	六中隊	三二中隊	—	—
和蘭	二五聯隊	—	二聯隊	一〇聯隊	—	二中隊
希臘	三三聯隊	—	五聯隊	一八聯隊	—	一四中隊
瑞典	二八聯隊	—	八聯隊	八聯隊	—	機一中隊
瑞西	三七聯隊	—	九聯隊	二七聯隊	—	機三五中隊
西班牙	七八聯隊	一	二七聯隊	三七聯隊	—	機一四中隊
チエツコ△	五二聯隊	—	一〇聯隊	四三聯隊	六大隊	機五聯隊
智利△	一七聯隊	—	九聯隊	五聯隊	二大隊	機八中隊
丁抹利△	一一聯隊	—	三聯隊	八大隊	三大隊	機一隊

土耳其	五四聯隊	—	一一聯隊	二七聯隊	—	機五中隊
獨逸	二一聯隊	—	一八聯隊	八聯隊	—	—
日本△	七〇聯隊 六六聯隊	二聯隊	二五聯隊	三一聯隊 九大聯隊	一聯隊	機二六中隊 球機二中隊
諾威	一八聯隊	—	三聯隊	一五大隊	—	機中隊
匈牙利	一六聯隊	—	六聯隊	七大隊	—	—
芬蘭	八聯隊	一中隊	二聯隊	八聯隊	—	機九中隊
佛蘭西△	一五二聯隊	四〇	六五聯隊	八七聯隊	五聯隊	機一三五中隊
伯刺西	三三聯隊 三四大隊	一中隊	二〇聯隊	四六中隊	—	機一二中隊
勃利	八聯隊	—	三聯隊	八大隊	—	—
白耳義	一八聯隊	二中隊	八聯隊	一二聯隊	一聯隊	機一九中隊
秘露	二〇聯隊	—	—	五聯隊	—	機三中隊
波蘭△	九〇聯隊	三	四三聯隊	四一聯隊 一三大隊	一〇大隊	機三六中隊
葡萄牙	二七聯隊	一	一一聯隊	一〇聯隊	二大隊	機七中隊
墨西哥	五〇大隊	—	八〇大隊	六聯隊	—	機六中隊
ユーゴスラヴィア	五八聯隊	—	八聯隊	三七聯隊	—	機一〇中隊
羅馬尼亞△	七一聯隊	二	二一聯隊	四九聯隊 一三大隊	五大隊	機七大隊
露西亞△	二一〇聯隊	一六	一三八聯隊	九一聯隊	二大聯隊	機八五中隊

# 陸軍特別大演習

時 日	場 所	參 加 師 團
明治二五年	宇都宮地方	近衛、第一、二、
三一年	大阪地方	第三、四、九、十
三四年	仙臺地方	第二、八
三五年	熊本地方	第六、十二
三六年	姫路地方	第五、十、十一
四〇年	結城地方	近衛、第一、三、十五
四一年	奈良附近	第四、九、十、十六
四二年	宇都宮附近	第二、七、八、十三、十四
四三年	岡山附近	第五、十、十七
四四年	久留米附近	第六、十二、十八
大正元年	川越附近	近衛、第一、十三、十四
二年	名古屋地方	第三、九、十五、十六
三年	大阪地方	第四、十、十一、十七
四年	弘前地方	第二、七、八
五年	福岡地方	第五、六、十一、十八
六年	彦根附近	第三、四、九、十六
七年	關東平原附近	近衛、第一、二、八、十三、十四、十五

八年	攝津地方	第四、十、十一、十七
九年	中津地方	第六、十二、十八
十年	武相平野	第五、十一
十一年	西部讚岐地方	第五、十一
十三年	加越地方	第九、十三、十六
十四年	仙臺地方	第二、七、八
十五年	佐賀平地方	第六、十二
昭和二年	中京地方	第一、三、四
三年	盛岡地方	第二、八
四年	水戸附近	近衛、第一、十四
五年	岡山附近	第五、十
六年	熊本附近	第六、十二
七年	近畿地方	第三、四、五、十六
八年	福井地方	第二、十一
九年	群馬地方	近衛、第一、四、十四
十一年	鹿島地方	
十二年	北陸地方	
十三年	支那地方	

昭和十一年五月十五日發行

昭和十年五月十日印刷  
昭和十年五月十五日發行

類傳記大日本史(第五回)  
第十四卷上 陸軍篇

版權

所有

著作權者  
兼發行者

東京市麴町區富士見町二ノ八  
長坂金雄

印刷者

東京市牛込區早稻田鶴卷町一〇七  
吉原良三

印刷所

東京市牛込區早稻田鶴卷町一〇七  
株式會社 康文社印刷所

發行所

東京市麴町區富士見町二ノ八  
雄山閣

電話九段(〇三五)一七四七  
振替東京二四二二七

# 硯墨新語

軍醫 總監 飯島茂著

定價 五圓五十錢・送料 廿二錢  
上製菊判五百廿頁・寫眞十八枚  
六十餘點內容豐富斯界空前の書

東京市麴町區富士見町雄山閣  
振替東京一六八五

## 略目次

緒言・第一章 硯の定義並名稱・第二章 硯の起原並其の發達・西域發掘漢晉時代の節札・朝鮮樂浪時代(前漢)の古墳出土の石板・第三章 硯墨の使用に關する用語・磨墨に關する用語・墨汁に關する用語・筆に關する用語・第四章 硯の種類・動物質の硯・植物質の硯・土質の硯・礦物質の硯・第五章 硯の具備すべき要件並其の鑑硯方式・傳統的鑑硯方式・科學的鑑硯方式・第六章 墨の一般的解説・墨の起原墨の名稱並澱墨の意義・墨汁・用墨上の注意・第七章 墨の科學的研究墨及墨汁の科學的成立・膠質特有の二性質・墨汁の凝集度・吸着現象及墨「コロイド」の大小・墨汁の粘稠性、凝固性及墨色・第八章 硯墨及水の科學的批判・第九章 支那の硯石(上)・序説・端溪石・端溪の地理的解説・端溪諸坑の變遷及採石狀況・端石各坑の所在・各端石特性端石に關する文獻・第十章 支那の硯(下)・歙石・端歙二石以外支那各省の硯石・第十一章 滿洲國の硯石・第十二章 日本の硯石・日本本土硯の使用法保存法並製法・第十四章 硯石文獻、索引・下略

西洋文明東漸によつて、書畫を成すに「ペン」及び鉛筆の使用が多くなり、硯墨筆紙の用途は狭められたかといふに、事實は決してさうでない。殊に近來書道の勃興、復興に伴つて硯の需要は著しく増加し、墨、筆の如きも只單に生産方面からのみ觀ても夥しき量に上つてゐる。實にや、古來支那人が硯墨筆紙をして文房四具、又四寶と謂ひしも故ある哉である。然るに斯程、我々東洋人と縁故深く、また我々の文房より絶對に離して考へ得られぬ硯及び墨に關する文獻は、我國に於て、一二を除く外信憑するに足るものはなかつた。本書は著者多年支那の地にありて討究せられたる蘊蓄を傾倒せられ、文學的、科學的兩方面より遺憾なきまでに硯墨の全貌を突明し盡してゐる。殊に彼の有名なる端溪及びその他の坑山の記述に至つては前人未踏ともいふべく、讀者をして宛然場にあらしむる觀がある。また各種の墨を科學的實驗方法によつて比較考量せられたる一項の如き驚嘆に値するものがある。加ふるに著者愛藏の秘硯口繪寫眞は世の愛硯家たるものをして垂涎措く能はざるものがあらう。

文學博士 中山久四郎先生編著

四六判・八百頁・上製・箱入  
定價金四圓也・送料十四錢

# 東洋史辭典

★ 刊 新 最 ★

待望の書  
東洋史辭典出づ!!

先駈者の業成る

非常時局到來と共に、東洋精神の再檢討はあらゆる層の人々の關心を唆つてやまぬ。然るに東洋精神の淵源する所を究めむには、東洋史を措いて他にない。これ曩に弊閣が東洋史講座を増訂新募集の企てを成した所以に外ならぬ。

然る所、東洋史研究上に必須ともいふべき東洋史辭典は未だこれあらず、好學者の渴望久しきものがあつた。ここに弊閣鑑みる所あり、東洋史學の泰斗、中山久四郎先生に委嘱、寶身彫骨といふも謬言ならざる努力の餘に成れる本書を江湖におくる次第である。本辭典が東洋史辭典の先駈を爲すものにして、東洋史研究はこれに依つて初めて其完璧を期し得られ、史學界に一大轉機を齎すであらうことを確信して疑はぬ。

なほ、詳細無比にして、而も讀者の参考、利便を旨として作成せられたる索引、系圖、圖譜、參考圖書書目は錦上さらに華を添ふものといふべく、本文と相俟つて洛陽の紙價を高からしめるに違ひない。

…本辭典の特色…

- ◆ 索引の完備(五十音順によりて排列されたる事項をそのまま牽索し得)
- ◆ 詳細なる諸國歴代帝國君長の系圖
- ◆ 東洋史關係の冠服宮殿武具樂器圖譜の收載
- ◆ 東洋史研究に必要な圖書の目録

發行所 東京市麴町區富士見町二丁目二番 雄山閣



宮内省御用掛 櫻井秀 文學士 足立勇共著  
菊判四百八十頁上製箱入・定價三圓五十錢  
口繪挿繪多數極上美本・送料 十八錢

最新刊

# 日本食物史

略 目 次

前代日本人の民族生活の真相は、衣食住の三方面即ち嗜好食物と着用品及住居の三方面に依りて、之を闡明する事が出来る。而るに従來服飾及建築の方面は比較的に攻究されて来たけれども、食饌慣習の考究は殆ど未墾地に近い。然しながら飲食物の推移やその調味攝取方法の變化發達は、人生に對して頗る重大なる意義を持つものである。之を通して前代人の身心兩方面をも推測し得るものである。特に近時植物食に對する興味が西洋に瀰漫してからは、最も發達した植物性食品とその調味術とを傳へた所謂「日本食」の史的發達を顧みる機運を促進しつつある。この意味に於て「日本食物史」の考究が、實際的方面からも又學的方面からも、當面の必須問題なる事は贅言を要しないと信ずる。

(第一編) 序説……食品の好惡と選擇……維新以後に於ける食饌慣習の二三……飯及其の種類……嗜食品の推移と疾患……近代の食饌慣習(食事度數制・女子飲酒の風)  
(第二編) 緒言……先史時代(民族の出生と民族性・山の幸と酒)……奈良時代(大寶令と食物・鮮營め物・酒と餅)……平安時代(諸國の物産・食料二百餘種・調味料・唐菓子・盛饌の獻立・年中行事と食物)……鎌倉時代(儉素な武家の食膳・食事の度數と主食物・精進料理の發達・喫茶の勃興・食通や故實の出現・食品と保健)……室町時代(點心・姫飯と湯漬・糍・四條流の料理・醬油の發達・出陣歸陣の食物的禮式・戦争と食物)……下略

食物推移の跡は人類開化の度を示すバロメーターである。從來等閑に附せられし食饌史研究の夫は、本書出で、始めて闇夜に光明を得たるが如し。

發行所 東京市東區二丁目二番七 雄山閣





